

SPECIAL
INTERVIEW

4847 TOKYO

RYUTARO SATO

佐藤隆太郎

4847





逃げ切れてホッとした

関係者に声をかけてもらえて嬉しい

SG4回目の挑戦でクラシックを制覇

初めて行った時からSGの雰囲気、浮き足立つことは特になかったです。お客さんや記者の方が多かったりとか、GIともちょっと違った雰囲気ではあるなとは思ってました。でも一般戦でもSGでもできることは正直変わらないので、できる準備をしっかりと、それを発揮できるように準備してレースに向かうっていうのは、どこを走っても一緒ですし、そこら辺は浮き足立たずに、いつも通りできてたかなとは思ってます。

クラシックの若松はすごく詳しいモーター評価を前検で渡してもらえるんですよ。(引いた30号機は)数字もあまりなかったし、乗り手もA級が1人乗ってたくらいなんですけど、それでもAプラスの評価だったので楽しみあるなあ、っていうのがもった時の心境ですね。初日の1走目は1号艇で調整はしっかり合ってはないかなんですけど、その中でも足の良さはあったので、合わせられればいいところには行けそうな手応えはありました。

西山貴浩とは予選トップ 争い優勝戦ではヒールの 立場にもなった

多分、梓番とかも含めて西山さ

んは上がってくるだろうなっていうのはありました。予選を終えて自分の1号艇は確か確定してたんですかね。まさかという感じではあったけどトップに決まった時は割と普通で。ただ、やっぱり周りですごいので意識せざるを得ないというのはありました。それでもその時点で固くなるってことはなかったです。準備も気持ち的にはしっかりといい状態で行けました。それより水面とか風のコンディションが厳しくて。なのでレースへの緊張というよりはそこらの集中力が必要な状況だったのが逆に良かったかもしれないですね。

(ヒール役?)しょうがないですね。優勝戦も1号艇で、西山さんもち、そんな雰囲気は節間あるんですけどそれが西山さんのスゴさであり、地元水面でしっかりとそこまでつていうのが本当にスゴいなあと思いました。そんな西山さんで若松だから、そういう役でいいかなとも思っていましたね。

優勝戦まではそんな変に固くなるとか、SGだからっていうのはなかったんです。ただ、日中は特訓行ったらもう声援がすごくて。あんまり普段ないじゃないですか。それでちょっとドキドキ感というか。「ウオオ」っていう、なんか盛り上がる気持ちは出てきましたね。これは(優勝戦に)乗らないと分らなかったと思います。

本番はスタート練習からしっか



りスタートが決まっていたんで、そこは大きな不安なく行けました。そんな際どいスタートでもなかったです。1号艇だったので逃げ切れてホッとしたのが一番でしたね。

SG覇者になって変わったこと

自分の中ではあまり変わってなくて、足りないところは多々あります。そこをどう強くなつていくかっていうのは、獲る前も今も変わらず、ずっと継続してるところではあります。でもやっぱり関東の整備士さんや記者さんとか関係者の方に声をかけてもらって個人的には嬉しかったです。多摩川と平和島ではファンの方の前で優勝報告会もさせてもらいました。これも獲ってなかったらやつてもらえなかったことですからね。師匠の長田(頼宗)さんからはもちろんおめでとうって言ってもらいましたし、いろんなお祝いもしてもらって。すごくありがたいです。なので今後は結果で恩返ししていきたいなっていう気持ちがあります。

東京支部の選手はなかなか大きいレースを勝てないと言われていて、(クラシックを勝つ前は)タイトルを獲ったことがなかったです。自分がどうこうしたいという立場ではなかったんですけど、東

Profile

佐藤隆太郎(さとう・りゅうたろう)
1994年5月7日生まれの31歳。
2014年11月多摩川で115期生としてデビュー。15年2月の桐生で初1着。17年3月の多摩川で初優勝を飾った。ここまで通算Vは15回。同期は権藤俊光、前田紗希、仲谷颯仁、野中一平、関浩哉、豊田健士郎らがいる。166cm、52kg。血液型＝O。

	勝率	2連対率	出走回数	優出	優勝	1着	F
通算成績	5.97	42.4	2335	64	15	547	13

	日付	競艇場	レース種別	通算日	節間成績
G I	初出走	2014/11/5～	多摩川 一般		5355553
	初優出	2016/9/22～	住之江 タイトル	2年 0か月	52214532③
	初優勝	2017/3/26～	多摩川 一般	2年 6か月	14221623①
	初出走	2019/9/18～	三 国 ヤングダービー	4年11か月	123344転5
SG	初優出	2020/2/7～	戸 田 関東地区選手権	5年 4か月	1232441⑤
	初出走	2024/8/27～	丸 亀 メモリアル	9年11か月	2235落524
	初優勝	2025/3/25～	若 松 クラシック	10年 6か月	114221①
	初優勝	2025/3/25～	若 松 クラシック	10年 6か月	114221①



SPECIAL INTERVIEW

京支部の一人として、面白い気持ちは常にありました。そこが、こういう形で一つ突破できたのは良かったです。でも、これからのので。一回で終わったらあまり大きくは変わらないでしょうし。「見とけよ」とは思ってますけどね。

今現在の實力

足りないところが多いので。もう全体的なレベルアップですね。常にグランプリに行ってる人たちを見てたり、SGを複数回勝ってる人とか見ると、まだ大きく足りないな、っていうのはあります。調整力に関しては、いいエンジンの力をそこそこ引き出してるなどは最近思ってます。若松もいいエンジンっていう評価で、最後もあそこまでの足に仕上げられたので。そこら辺に関しては自信を持ってないですけど、そこがあつたからこそその優勝だったかなとは思ってますね。色々試行錯誤しながらですけど。

昨年は優勝を8回できたのは大きいと思います。こう右肩上がりですつとまくなる競技じゃなくて。急に何かきつかけがあつたか、つていうとそうでもないんですけど。急にボンつてうまくなるタイミングとか、成績に結びつき出す期間っていうのがあつて。それが一般戦ではありますけど、結

果として出だしたのが去年かなと思います。

スタート力は若手の時によくフライングを切つていて、このままじゃダメだなと思ってるような人にスタートの方法とか聞いたりました。最近は徐々に安定して早くなつてきてはいますけど、そこをもう一段階上げられたらと思っています。

旋回力に関しては安定感がもう一つ上がつてこないと成績も安定してこないと思つて。ハマった時はそこそこいいターンをしようと思うんですけど、それを毎回できるか、っていうとそうでもないです。その確率を上げていかなきゃいけないって思っています。

同期の仲谷颯仁や関浩哉は、自分より早くから記念獲つてたり活躍してたので、純粹にすごいなっていう気持ちです。そこに対して悔しいとかはあんまりなくて。自分がやれることをしつかりやれば、同じようなところに行けるんじゃないかとは思っていました。でもそうは言いつつも刺激は受けてると思います。

今後のSG、年末の グランプリに向けて

1年の中で一番最初のSGを獲れて、賞金的にグランプリを早めに意識できるようになりました。グランプリまで時間があるので、

RYUTARO SATO



大きいところでどれだけ勝負できるかっていう、その実力をもっとつけていきたいです。よりこう勝負できるようなというか、それを意識できるだけで、一つまた成長できる機会だと思うので。この期間をしつかり過ごしていきたいなとは思っています。ただ、今年で選手が終わるわけじゃなくて2年後、3年後ももっと強くなって、グランプリに定着していられる選手になりたいと思っています。

まずは次。SGとは言わないで

すけど、記念のタイトルとか、次を獲ってようやく周りからの見る目が変わってくると思うので。そこを獲りたいですし、いつ獲れてもおかしくない実力をつけていきたいなと思っています。あと、自分でチャンスを作る実力をつけたい。今回のSGはうまいこと全てがちゃんとハマって獲れちゃった感覚なので。それを自分でより獲れるような、いろんな状況を作れるような力をつけたいと思います。